

本市における
タブレット調達に向けた
情報整理

遠藤 忍

GIGAスクール構想の本旨は、情報通信機器を活用した学びによって、以下の点を実現することにある

- ① 個々人に合った学習の自律的選択とサポートを実現する
- ② 新学習指導要領にある学びの在り方・学力観を実現する
- ③ 学校内外の多様な他者との繋がりによる学習を実現する

変化の速い状況でのICT活用においては【禁止・制限】は停滞しか生まないので、以下の3点が肝要

まず使わせる

モラルを育てる

常に記録を取る

5月11日・文科省「学校の情報環境整備に関する説明会」を見るに、以下3点の整備はセットであるべき

- ① インターネット **常時接続可能な1人1台のデバイス**
- ② 機材利用のための **1人1アカウントのクラウドサービス**
- ③ 1人1台が全校分接続しても **落ちない高速ネットワーク**

1人1台が実現しても、それらを**場所や時間を問わず自由に利用できる**状況になればただのまな板になる

データの**クラウド保存は「いつでもどこでも」の大前提**だから
1人1アカウントのサービス導入は必ず**セット**で検討すべき

メリット

- 個別の学習指導の担保
- 3密を避けた協調学習
- 保護者を介さずに子どもとのコミュニケーションが行える
- 子ども各自がメールアドレスを持つことで外部とのやり取りを増やし学びを広げる
- 普段教室で発言できない子どもも自由に質問をして共有が図れる
- 観察活動や制作活動などの記録の保持
- 絵を描く、動画をつくる、文筆する、プログラムをつくる等、制作物の多様化

そのために

1. 1人1アカウントのクラウドサービスの導入
 - Microsoft365 for Education
 - G Suite for Education
2. まなびポケットやeboardなどの自主学習コンテンツの同時導入
3. コミュニケーションツールの使い方に関する教員研修や児童生徒への指導
4. 生活保護世帯への学習用通信費負担の案内
5. いかなるアクセス制限も課さない
6. 学習文房具として毎日持参させる
7. 委員会主導のオンラインドリルテンプレート作成
8. 校内ネットワークの高速化
9. 教務支援システムを 1. に切り替える

リスク

- 機器の紛失と破損
- プライバシーにかかわる情報の、子どもたち自身による「うっかり」公開
- 「先生、パスワード忘れました」の続出
- 通信量の増大による家庭の通信費負担の増大または通信制限
- 機器を利用したコミュニケーションでの人間関係トラブル
- いわゆる「内職」による集中力の減退

防止の手立て

1. 情報管理ポリシーの策定と使用許可願の締結
2. 機器管理ポリシーの策定と使用許可願の締結
3. 1と2のポリシーを禁則事項を定めるものとせずリスク提示とリスク回避のための約束事とする
4. デバイス・アカウントごとのアクセス履歴管理
5. 情報セキュリティ&モラル講座の実施
6. ICT支援員に各校の管理者権限を付与する
7. タブレットケースと画面シートの購入
8. 端末への保険